

**医学部・医学研究院**

I	研究水準	.....	研究 6-2
II	質の向上度	.....	研究 6-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の原著数 633 件、総説 648 件、著書 256 件の計 1,537 件で、そのうち査読によるものが 41.2%（633 件）、欧文が 46.9%（721 件）を占め、教員（助教以上 249 名）一名当たりの平均論文数が 6.2 件となっている。原著論文のインパクトファクター（IF）は一件当たり 3.4、IF10 以上 57 件、IF20 以上 10 件となっている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が平成 16 年度から 19 年度にかけて合計 642 件（29.1 億円）、年平均 161 件（7.3 億円）で、採択率が過去 4 年間を通して 51.5%（申請 980 件中 505 件採択）となっている。その他の競争的外部資金の受入状況は、平成 16 年度以降で 21 世紀 COE プログラム 1 件、他の研究院と共同で 21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラム 1 件、九州大学の戦略的教育研究拠点プログラム等、活発な研究活動が展開されていることは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準にある

##### [判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、医学・生命科学領域における研究が IF の高い国際誌に数多く掲載されている。その他の研究成果については、国内外の学会賞や文部科学大臣表彰科学技術賞等の受賞実績を有する。卓越した研究成果として、例えば、「ヒト幹細胞システムの医学的応用への研究拠点の創出」プログラムを通じて、各臓器分野における幹細胞・前駆細胞、がん幹細胞を同定し、その機能解析を進めていることは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学研究院が想定している関係者の「期待される水準に

ある」と判断される。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

#### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

